



株式会社 UACJ

2023 年 3 月期第 3 四半期決算説明会

2023 年 2 月 7 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ
[企業 ID]	5741
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2023 年度 第 3 四半期
[日程]	2023 年 2 月 7 日
[ページ数]	36
[時間]	15:30 – 16:30 (合計：60 分、登壇：29 分、質疑応答：31 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	122
[登壇者]	6 名 代表取締役社長 社長執行役員 石原 美幸 (以下、石原) 取締役 副社長執行役員 川島 輝夫 (以下、川島)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



取締役 常務執行役員構造改革本部長

田中 信二（以下、田中）

執行役員 経営戦略本部長

隈元 穰治（以下、隈元）

執行役員 財務本部長

飯田 晴央（以下、飯田）

財務本部 IR 部長

上田 薫（以下、上田）

[アナリスト名]*

SMBC 日興証券

山口 敦

UBS 証券

五老 晴信

モルガン・スタンレーMUFG 証券

白川 祐

野村証券

松本 裕司

大和証券

尾崎 慎一郎

東海東京調査センター

柴田 竜之介

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。本日は大変お忙しい中、株式会社 UACJ、2022 年度第 3 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。

なお、この説明会では、将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により、実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がありますのでご注意ください。

では、本日の当社出席者をご紹介します。代表取締役 社長執行役員 石原美幸です。

石原：石原でございます。よろしくお願いいたします。

上田：取締役 副社長執行役員、川島輝夫です。

川島：川島です。本日はよろしくお願いいたします。

上田：取締役 常務執行役員 構造改革本部長 田中信二です。

田中：田中です。よろしくお願いいたします。

上田：執行役員 経営戦略本部長 隈元穰治です。

隈元：隈元でございます。よろしくお願いいたします。

上田：執行役員 財務本部長 飯田晴央です。

飯田：飯田です。よろしくお願いいたします。

上田：私は、本日司会を務めます、財務本部 IR 部長 上田薫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日発表いたしました 2022 年度第 3 四半期業績、また通期業績見通しにつきまして、副社長の川島より説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。川島副社長、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



川島：では川島から、サードクォーターの決算の概況について説明させていただきます。資料の右下のページ数を申しますので、そのページを開けてください。

発表のポイント

第3四半期 前年同期比増収、棚卸資産影響前経常利益増益 158億円(前年同期比+3億円)
22年度通期業績見通しでは、棚卸影響前経常利益 200億円

- 1 ■ **2022年度 第3四半期累計 総括**
 - ✓ 第3四半期累計では増益、第3四半期単独では自動車生産の影響を受けた
 - ✓ 国内:自動車関連が市況影響を引き続き受けるも、エアコンフィン材等の一般材の販売が増加
 - ✓ 海外:旺盛なグローバル缶材需要を捉え、TAA^{*1}/UATH^{*2}ともに増益
- 2 ■ **2022年度 通期業績見通し**
 - ✓ 外部環境の変化に対応するも、自動車関連等の生産混乱影響を受け**実力利益は200億円**に変更
 - ✓ エネルギー・添加金属の市場に連動した値決めスキームは計画通り2022年度下期から適用
- 3 ■ **構造改革の進捗**
 - ✓ 各施策については予定通り進捗
 - ✓ 構造改革効果**210億円**

*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.
*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.

1

まず1ページ、今回の発表のポイントを三つ書いております。このサードクォーターまでの総括、2022年度の見通し、それから構造改革です。

サードクォーターまでの実績につきましては、棚卸影響前経常利益が158億円で、前期と比べると3億円上回って決算を終えました。

2022年度の通期の見通しは今回見直しまして、200億円とさせていただきます。

併せて、エネルギー・添加金属価格が上がってございましたけれども、お客様と相談させていただき、夏ごろから値決めスキームをほぼ合意し、この下期から適用されている状況でございます。

それから最後に、この年度が構造改革の最終年度となりますが、予定どおり進んでいる状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



外部環境の変化と対応について

外部事業環境の変化に強い収益構造の確立に向けた施策を実施

	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁は 予定通り3Qより実施	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを導入済)	新規契約 市場価格連動の 価格スキームを導入済 既存契約の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を導入済)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

エネルギー等の外部環境の変化の取り組みについて、2 ページを開けてください。

これは毎回書いている図ですが、日本、アメリカ、タイそれぞれでお客様といろいろと相談させていただいており、ほぼ全ての地域で高騰分に連動できるという価格体系が出来上がったという状況です。

日本のエネルギー代については、サードクォーターから予定どおり、一部価格転嫁をさせていただくスキームを採用した状況でございます。

それからタイにつきましても、新しい契約については、この価格連動の導入を前提にお客様と契約をさせていただいています。既存契約についても、エネルギー価格の高騰分の転嫁をお願いして、合意していている状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

業績 サマリー

第3四半期 棚卸資産影響前経常利益 158億円(前年同期比 +3億円)

第3四半期 経常利益 104億円(前年同期比 △ 255億円)

■ 数量：1,009千トン 前年同期比 +43千トン

- ・ 缶材：UATH(タイ)、TAA(米国)が引き続き増加
- ・ 一般材：エアコンフィン材は世界的なエアコン需要の取り込み、印刷版材は国内回帰により増加
- ・ 自動車関連(自動車材、箔)、IT関連材：半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受ける

■ 棚卸影響前経常利益：前年同期比 +3億円

◎増益要因(構造改革効果を含む)

- ・ 国内事業の改善
- ・ UATH業績好調継続
- ・ TAA業績好調継続

△減益要因

- ・ エネルギー価格の上昇
- ・ 自動車生産混乱の影響を受ける

© UACJ Corporation. All rights reserved.

5

では、サードクォーターの状況でございます。

5 ページにサマリーを書いておりますけれども、細かい数字でございますので、6 ページ以降で説明させていただきます。

第3四半期 業績

(単位:億円)

	2021年度 3Q累計 (A)	2022年度 3Q累計 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	5,627	7,283	1,657
連結営業利益	428	155	△ 274
棚卸資産影響前 連結経常利益	156	158	3
棚卸資産影響額	204	△ 54	△ 258
連結経常利益	360	104	△ 255
連結当期純利益 ^{*1}	232	73	△ 159
Adjusted EBITDA ^{*2}	450	461	11

*1 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

© UACJ Corporation. All rights reserved. *2 Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸資産影響

6

6 ページを開けてください。これがサードクォーターの実績でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

売上高が 7,283 億円、連結営業利益が 155 億円、棚卸影響前連結経常利益が 158 億円、棚卸資産影響がマイナス 54 億円。結果として連結経常利益が 104 億円、最終利益が 73 億円、それから Adjusted EBITDA については 461 億円が、このサードクォーターの実績でございます。

前年同期との差について、売上高は 1,657 億円ほど増収でした。大変大きな増収となりましたが、そのうちの約 1,300 億円程度がアルミ地金価格が上がるとか、もしくは円安の影響であり、市況の変化によるものです。残りは販売数量が増えているとか、もしくは連結範囲の変更で増えています。

それから棚卸資産影響前経常利益は 158 億円ということで、前年とほぼ同じ数字を確保できました。

Adjusted EBITDA は 461 億円で、確実に稼ぐ力が上がっていることを示せました。

他方で、棚卸資産影響額が前年度 204 億円のプラスだったものが、今期 54 億円のマイナスと、大幅に地金価格が下がっているということの影響を受けて、前年同期 258 億円のマイナスとなりました。この影響を受けて経常利益、最終利益とも前年に比べると減益となっております。

1. 2022年度 第3四半期 業績

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 3Q累計 (A)		2022年度 3Q累計 (B)		増減 (B)-(A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	5,023	467	6,474	199	1,451	△ 268
加工品・関連事業	1,186	3	1,471	△ 1	285	△ 4
(調整額)	△ 582	△ 41	△ 662	△ 43	△ 80	△ 2
合計	5,627	428	7,283	155	1,657	△ 274

© UACJ Corporation. All rights reserved.

7

7 ページにセグメントの状況が書いてあります。

サードクォーター実績 155 億円の営業利益を分けると、加工品・関連事業のところで売上高が 1,471 億円に対して利益がマイナスという状況でございます。これは後で触れますけれども、アメ

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



7

リカの自動車部品事業、Whitehall が自動車生産の混乱を受けて、マイナスだったことが大きく響いている状況です。

1. 2022年度 第3四半期 業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2021年度 3Q累計 (A)	2022年度 3Q累計 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	609	660	51
箔 地	43	35	△ 8
I T 材	11	7	△ 4
自動車材	105	92	△ 13
厚 板	39	41	2
その他一般材	160	174	14
合 計	966 国内市場向け 355 海外市場向け 611	1,009 国内市場向け 357 海外市場向け 652	43 国内市場向け 2 海外市場向け 41

© UACJ Corporation. All rights reserved. ※内部取引控除後の数量

8

8 ページを開けてください。売上高、損益の状況の前提となる販売の状況でございます。これが当社のメインでありますアルミ板の日本、アメリカ、それからタイ、3 極の合計の数量でございます。

今期、サードクォーターまでの累計が 100 万 9,000 トンで、前年同期と比べると 4 万 3,000 トン増えております。内訳を見ていただければ、缶材が 5 万 1,000 トン増えているということで、大変伸びている状況です。

自動車材は生産の混乱を受けて、前年と比べると 1 万 3,000 トン、約 13%減っている。同様に箔地についても 8,000 トン、約 20%弱減っており、マイナスが大きいです。

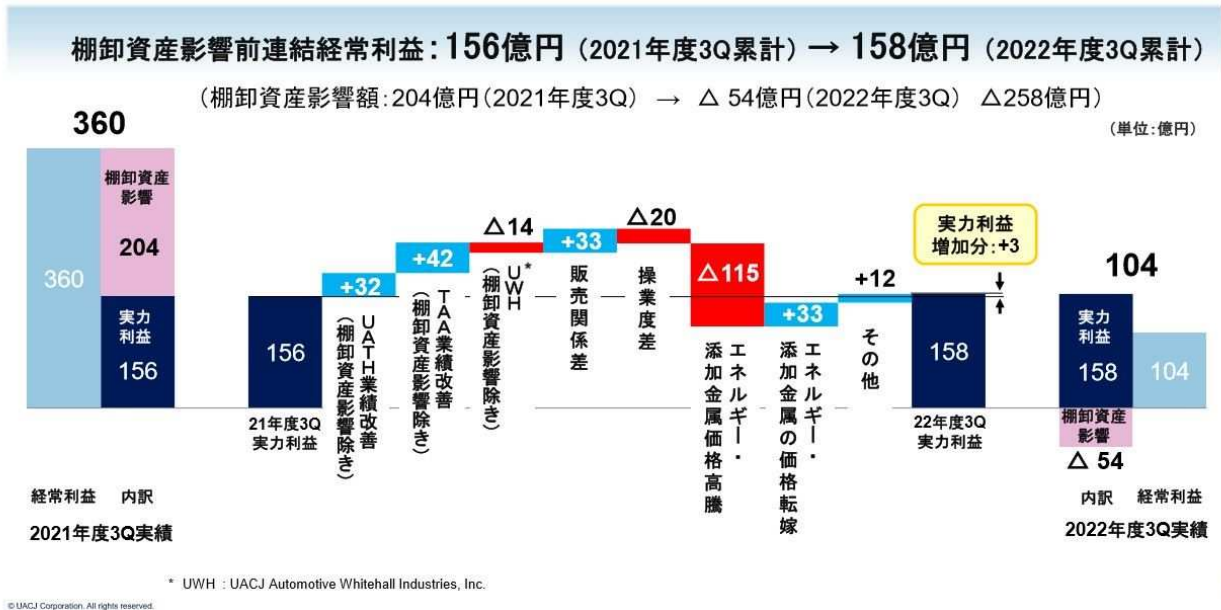
全体では 4 万 3,000 トン増えていますが、海外向け、特に北米のマーケットを中心に増えているということをここで表しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度3Q累計 → 2022年度3Q累計)



9

このような販売の状況を受けて、9ページを見ていただけますでしょうか。これが前年同期との損益分析です。

前年同期は、360億円の利益のうち、棚卸資産影響が204億円ありますので、実力利益が156億円でした。この156億円が今期には158億円で3億円ほど増えている状況です。

左から、タイのUATH、TAA、こちらが大変好調で利益を引き上げております。他方で、自動車生産の混乱を受けて、Whitehallが前年度と比べると14億円マイナスされて、結果として海外関係で60億円ほどプラスの状況であります。

国内の販売も前年と比べれば増えており、販売関係差がプラス。他方で生産量が減っており、操業度差ではマイナスという状況であります。

一番影響が大きいのがエネルギー価格の高騰です。先ほど申しましたように、サードクォーターからエネルギー価格転嫁の新しいシステムが開始しているものの、エネルギー代が期初から上がっておりますので、転嫁タイミングの差があります。結果として、115億円のエネルギー代がマイナスとなりました。これは添加金属を含めてです。それに対して33億円をリカバーしました。これを差し引きすると82億円が前期比で大きくコストアップとなりました。それを海外事業と国内事業でカバーし、前期と同じような数字を計上できたというのがサードクォーターまでの状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結貸借対照表、資金運用表

アルミ地金高騰により短期資金は不足も、財務基盤の源泉となる長期資金余剰を創出

連結貸借対照表

(単位:億円)	22/3末 (A)	22/12末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	265	122
受取手形及び売掛金	1,227	1,376	149
棚卸資産	2,324	2,518	194
その他流動資産	252	389	137
有形・無形固定資産	3,985	4,073	88
投資その他の資産	356	391	35
資産合計	8,287	9,011	724
支払手形及び買掛金	1,186	1,256	70
短期借入金	1,419	1,925	506
長期借入金	1,975	1,792	△ 183
その他	1,231	1,299	66
株主資本合計	2,090	2,122	33
その他包括利益	190	411	221
非支配株主持分	196	206	10
負債及び純資産合計	8,287	9,011	724

© UACJ Corporation. All rights reserved.

資金運用表

	用途	調達		
長期 資金	設備投資	177	税引前利益	93
	法人税等支払	80	減価償却費	278
	長期資金余剰	114		
短期 資金	運転資金増加	202		
			短期資金不足	202

長期資金余剰 114億円

短期資金不足 202億円

FCF △ 88億円

長期資金：財務基盤の強化の源泉となる資金の創出
 短期資金：アルミ地金価格等高騰による運転資金の増加

10

10 ページを開けてください。バランスシートの状況です。

12 月末の総資産は、約 9,000 億円です。前年度の 3 月末と比べると 724 億円増えております。大変大きく増えていますが、このうちの約 500 億円が為替の影響です。海外子会社の実績を円換算するときには円安の影響で 500 億円ほど増加しており、実質的には 200 億円ほどの増加となっております。

右に資金運用表を書いております。地金価格が上がっていること、急激な生産のマイナスになること、景気の減退を含めて、フリー・キャッシュ・フローがマイナスとなっております。しかしながら長期の資金、会社の根幹を表す長期の資金については、サードクォーターまででの累計でも確実に 114 億円の資金をつくりました。

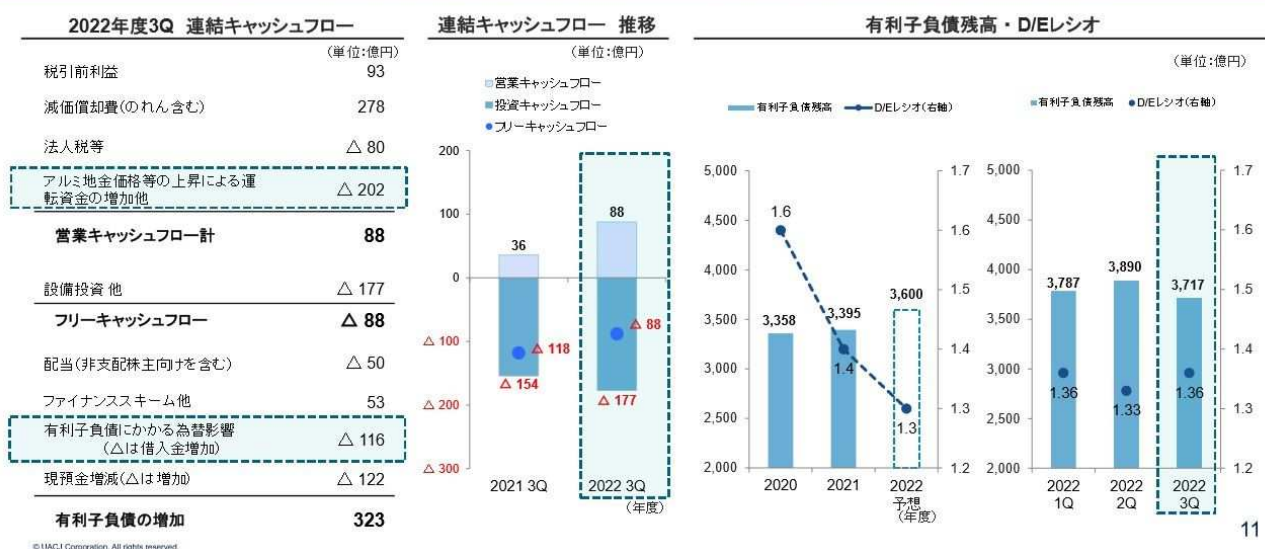
他方で運転資金、棚卸が増える、もしくは債務が増えるということで、202 億円の資金不足となり、差し引きするとフリー・キャッシュ・フローが 88 億円のマイナスという結果でございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結キャッシュフロー計算書

アルミ地金上昇により有利子負債残高が増加するも、3Qより減少



11

11 ページ、それを今度はキャッシュ・フローを示しております。

内容的には同じでございますけれども、左にあります、利益と償却の関係で、約 360 億～370 億円の資金をつくっているのですけれども、他方で、網掛けをしておりますが、地金価格の高騰等による運転資金の増加が 200 億円ある、それに設備投資が現金ベースです。キャッシュベースで 177 億円ということで、88 億円のフリー・キャッシュ・フローのマイナスという状況です。

設備投資につきましては、キャッシュベースで 177 億円ですけれども、検収ベースだとサードクォーターまでは 147 億円という状況でございます。これにファイナンススキーム、それから外貨建ての海外会社の借入金、これが円安で為替レートが変わったということで、その関係で 116 億円ほど見た目では借入金が増えているという形で、結果として有利子負債が前年同期と比べると 323 億円増えている状況です。

右から 2 番目のところに、この 3 年間の大きな動きを書いております。会社の目標として D/E レシオを下げ、中期計画の中では 1.3 を目指しており、この 3 月末で、借入金 3,600 億円まで圧縮して、D/E レシオは 1.3 まで持っていけるという状況であります。

クォーターごとの動きを右のほうに書いております。昨年の 3 月末が有利子負債 3,395 億円だったのが、ファーストクォーターの段階では、まだ地金価格が高かったということで、運転資金が増え、セカンドクォーターまで増えたのですけれども、サードクォーターでは 170 億円ほどデット

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

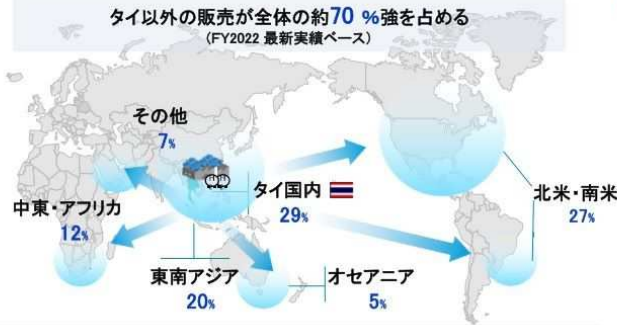
プラス、それからさらにフォースクォーターでも 120 億円ほど減らして 3,600 億円まで有利子負債を持っていけると考えています。

1. 2022年度 第3四半期 業績

タイ(UATH)の状況 ~2022年度 3Q総括

グローバルでの旺盛な缶材需要、エアコンフィン材需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- 添加金属価格の高騰
- エネルギーコストの高騰
- グローバルでの旺盛な需要環境
- 添加金属の高騰分の転嫁はおおよそお客様と合意
- エネルギーコスト高騰分の転嫁は新規契約・契約更新時に盛り込む
- 旺盛な需要を背景に、価格交渉を継続

3Q 総括

需要 : 世界的な半導体不足による自動車生産調整の影響あるも、缶材・フィン材の堅調な需要は継続

販売 : 好調な缶材に加え、エアコンフィン材の販売好調

生産量 : 27千t/月(2022年1~9月)

販売量 : 27千t/月(2022年1~9月)

損益	(単位:億円)		
	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	前年同期比
売上高	957	1,449	492
営業利益	61	46	△ 15
棚卸資産影響前 経常利益	△ 5	28	32
経常利益	18	19	0

© UACJ Corporation. All rights reserved.

12

12 ページ以降で、海外会社の概要を国ごとに説明しております。まず、12 ページ、タイの状況です。

タイにつきましては大変順調でございまして、販売生産量につきましては年間で 32 万トンが達成できました。12 月決算のため実際には決算は終わっており、今期実績として 32 万トンは確保できたと考えております。

サードクォーターまでの損益でございまして、色を変えておりますけれども、棚卸資産影響前経常利益で 28 億円の利益を確保でき、前年同期と比べると 32 億円ほど好転して、大変会社の利益に寄与できる成長市場になったと考えております。

左に図が書いてありますが、タイの販売先状況として大きいのは北米です。全体の 3 割弱が北米向けに輸出という形で、それ以外にアジア関係のところが大きく輸出している状況です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



旺盛な米国缶材需要を捉え、増収・増益(棚卸影響前経常利益)

米国缶材需要と国内供給能力の推移



© UACI Corporation. All rights reserved. *CAGR: 複数の期間に渡る増加率を単位期間あたりの増加率で表したものの、年平均成長率

3Q 総括

缶材需要 : 長期的に旺盛な需要環境継続

販売量 : 44千t/月(2022年4~12月)
※国内・UATH出荷分含む

生産能力 : 約450千t/年体制確立

増産対応 : 北米生産拠点の設備増強

損益	(単位:億円)		
	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	前年同期比
売上高	1,712	2,239	527
営業利益	223	28	△ 195
棚卸資産影響前 経常利益	72	114	42
経常利益	205	△ 4	△ 209

13

それから、13 ページを開けてください。TAA の状況でございます。

損益につきましては、その網掛け、棚卸資産影響前経常利益が 114 億円で、前年同期と比べると 42 億円増加をしております。ただし、棚卸資産影響額で前年同期はプラス 133 億円だったのが、今年はマイナス 118 億円で、表面的な経常利益は前期と比べると 200 億円ほどマイナスになっている状況でございます。実力ベースでは確実にアメリカのマーケット状況がいいということを背景にプラスになっています。

ただ、足元、昨年夏前ぐらいから、アメリカで在庫の調整が始まっていると聞いております。ですがアルミの缶の需要の動向については 4%~6%と見込み、2030 年まで増えていく見通しは何も変わっておりません。

物流の混乱等があって、お客様の対策として随分在庫を持っていたものが、この混乱の収束で、今在庫の調整局面に入っていると報告を受けております。今年の夏前ぐらいまではそれが続くだろうと見込んでいます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

米国(UWH)の状況 ~2022年度期 3Q総括

受注済大型案件の生産が始まるも、自動車生産混乱の影響を受け実需に期ズレが生じる

UWH 売上高推移(単位:億円)



*1 20年度…2020年1月~12月 *2 21年度…2021年4月~2022年3月 *3 22年度…2022年4月~2023年3月

© UACJ Corporation. All rights reserved.

3Q 総括

市場環境 : ・米国政府のバイ・アメリカン法により、EV需要は増加

販売 : ・半導体不足等による自動車生産混乱の影響を引き続き受け、実需の期ズレが生じている
・売上高増加は、アルミ地金価格の高騰影響

生産体制 : ・新ライン稼働開始も、販売影響で低稼働
・自動化、コスト削減などの施策を実施し、加えて、さらなる追加施策を検討中

(単位:億円)

損益	21年度 3Q累計	22年度 3Q累計	前年同期比
売上高	165	268	103
営業利益	△ 17	△ 23	△ 6
棚卸資産影響前 経常利益	△ 19	△ 33	△ 14
経常利益	△ 19	△ 31	△ 12

14

それから、14 ページを開けてください。アメリカの自動車部品の事業 Whitehall です。

左の図に、クォーターごとの売上高が書いてあります。2022 年度、ファーストクォーター、セカンドクォーター、サードクォーターという形で、セカンドクォーター以降は大変売上高は伸びているように見えますが、これは実際には若干の期ズレがあるものの、アルミ地金価格が上がってきた影響であり、実際の販売数量については、ファーストクォーターとあまり変わらない状況でございます

損益につきましても、サードクォーターまでの 33 億円の赤字ということで、大変厳しい状況でございます。お客様から注文はいただいておりますけれども、アメリカの自動車生産の混乱、これが全然解消されていないことの影響を受けております。半導体だけではなくてその他の部品のサプライチェーンが混乱していて、なかなか思うように立ち上がらないという影響をもろに受けている状況です。

いよいよ年明け以降、受注が予定どおり進行されており、サードクォーターまでの損失は 33 億円ですけれども、年間では 31 億~32 億円を見込み、フォースクォーターは収支がトントンぐらいまで持ってこられるという見通しを持っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2. 構造改革の進捗

構造改革の進捗

全社一丸となって、構造改革3年の集大成へ

施策	2019年度		2020年度				2021年度				2022年度				● 現時点
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
生産拠点集約	★深谷下工程		一部停止	日光閉鎖完了★		押出小山/名古屋プレス集約★						★ 深谷自動車材移管完了 (一般材の受注対応により設備稼働継続)			
	移管・品質確認・人員再配置調整														
	集約効果												集約効果のフル貢献		
大型投資 収益化	UATH	3期設備 品質確認・生産量拡大		販売 32万トン/年 体制											
	TAA	★新冷延 稼働 品質確認		販売 45万トン/年 体制											
不採算分野/ ノンコア分野撤退	売却 撤退候補分野の撤回検討		売却 撤退の実施				継続的な撤退の検討								
ガバナンス マネジメント	取締役・ 役員体制見直し	新体制検討		新体制準備		新体制での運営									
	組織・権限・ コーポレート 機能改革	マスタープラン・ ロードマップ策定		詳細設計				改革実行フェーズ							
	理念・価値観の 再確認と再構築	見直し案の策定		浸透活動											

© UACJ Corporation. All rights reserved.

16

次に、構造改革の状況でございます。16 ページでございます。

構造改革につきましては、この2023年3月末がゴールであり、今、何としてでもこれを達成すると、全社一丸となって取り組んでいます。見ていただきますように、今のところスケジュールはオンスケジュールという形で、このままあと2カ月ございますけれども、ゴールまで行けるのではないかなと考えております。

2. 構造改革の進捗

構造改革実施による収益改善効果

収益構造の改革・大型投資の収益化を実現し、210億円を達成へ

	構造改革発表時 (2019年9月)	第3次中計発表時 (2021年5月)	2022年度 上期決算発表時 (2022年11月)	最新見直し
国内：収益構造改革	+100億円	+67億円	+101億円	+101億円
生産拠点集約	+40億円	+34億円	+21億円	+21億円
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+25億円	+70億円	+70億円
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+8億円	+10億円	+10億円
海外：大型投資収益化	+110億円	+118億円	+109億円	+109億円
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+76億円	+70億円	+78億円
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+19億円	+46億円	+46億円
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	+23億円	△7億円	△15億円
構造改革効果	+210億円	+185億円	+210億円	+210億円

© UACJ Corporation. All rights reserved.

17

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



金額につきましては、17 ページを開けてください。

項目ごとにでこぼこあるのですけれども、もともと自分たちが考えていた、構造改革における会社の経営基盤を強化として 210 億円の実績が達成できるという見込みでございます。

3. 2022年度 通期業績見通し

経営環境認識

全体

- 消費者の環境意識向上に伴い、グローバルで缶材、自動車材を中心にアルミニウム素材の需要は、中長期的な増加基調に変化なし
- 自動車関係のサプライチェーンの混乱と、北米缶材の在庫調整影響は2023年度下期からの回復を見込む
⇒需要が厳しい中ではシェア維持・向上につとめ、さらなるコスト低減を推進
⇒2023年度はエネルギー、添加金属の市場価格に連動した値決めスキームが年間を通して効果顕現

缶材

国内：人口減少に反し底堅い需要の中、販売量の増加に向けた活動を実施
グローバル：足元の景況感やインフレ影響、サプライチェーン混乱で生じた過剰在庫消化の影響を一時的に受けるも、中長期的には、旺盛な需要環境継続を見込む

自動車材

国内板材：福井製造所への生産移管完了により、集約効果を最大限発揮していく
UWH：期ズレした実需の回復に備え、ライン自動化やコスト削減などの施策を実施

その他

厚板：短期的には調整局面も、半導体製造装置向けは中長期では需要は堅調
IT材：足元は在庫調整の局面も、今後DXや5G関連用途への需要拡大を見込む
エアコンフィン材：欧州・東南アジアを中心としたグローバルでのエアコン用途拡大により、フィン材需要拡大
印刷版材：国内回帰の需要取り込みにより販売増加
⇒「強固な顧客基盤」や「多品種・多用途への対応力」を活かし、好調な分野で利益を確保していく

© UACJ Corporation. All rights reserved.

19

次に、年間の見通しでございます。19 ページを開けてください。

まず、経営環境の認識という形で、フォースクォーター、それから地域別・部材別という形で書いております。

全体の一つ目、缶材、それから自動車材を中心としたアルミの素材の需要は、中長期的に考えれば増加基調ということに対して何ら変化はないと認識しております。北米、欧州を中心にアルミ缶の需要はどんどん高まっております。EV化が進むことによって、それに対するアルミの材料を使うというポジションは増えてきております。この基調は何も変わっておりません。

とは言いながら、直近の足元で見ると、やはりサプライチェーンの混乱による自動車生産の混乱と、それから先ほども触れましたけれども、北米缶材については在庫調整が今は行われているということで、若干足踏み状態のところがあります。ただし、この缶材につきましては、この夏ぐらいから回復していくというような見通し、お客様からもそのような話を伺っている状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



この中で一番大きいのがエネルギー代です。添加金属の上昇があるのですが、これについても値決めスキームをお客様と相談させていただきながら、どうか合意いただいたということで、企業運営をする基盤が大変強化されたと考えております。

下のほうに缶材、自動車材、その他という形で書いております。缶材につきましては、先ほど申しましたように、トータルの国内、それから海外、大きな変化はないですけれども、足元で見ると在庫調整は行われていると認識しています。

自動車材についても同じですが、国内については福井にパネル材の生産設備を集約したことにより、集約効果は今後発揮できるだろうと考えています。

それから、Whitehall につきましても、既にお客様から決まった製品の注文はいただいておりますので、これが立ち上がってくれば確実に量は取れ、期ズレが起こっている認識をしております。

それからその他、厚板につきましては半導体装置の中長期的な需要は堅調と考えていますが、足元では調整が起こっている認識です。それから IT につきましても、足元は在庫調整が進み、長期的なトレンドについては何も変わっていないだろうという見方をしております。

3. 2022年度 通期業績見通し

2022年度 通期業績見通し

(単位:億円)	2022年度 (11月時見通し) (A)	2022年度 (最新見通し) (B)	2021年度 (実績) (C)	増減 (B)-(A)	増減 (B)-(C)
連結売上高	9,000	9,000	7,829	0	1,171
連結営業利益	210	170	595	△ 40	△ 425
棚卸資産影響前 連結経常利益	235	200	213	△ 35	△ 13
棚卸資産影響額	△ 80	△ 100	310	△ 20	△ 410
連結経常利益	155	100	523	△ 55	△ 423
連結当期純利益	100	70	321	△ 30	△ 251
Adjusted EBITDA	628	618	602	△ 10	16
年間配当	85円/株	85円/株	85円/株	—	—

© UACJ Corporation. All rights reserved.

20

20 ページを開けてください。今年度の損益状況です。赤枠のところが直近の見通しです。

売上高が 9,000 億円、それから棚卸資産影響前連結経常利益が 200 億円、連結経常利益が 100 億円、最終利益は 70 億円、EBITDA につきましては 618 億円と見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



11月の見通しと比べると、棚卸資産影響前連結経常利益のところについては、235億円を今回は200億円と直しております。

3. 2022年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2022年度 (11月時見通し) (A)	2022年度 (最新見通し) (B)	2021年度 (実績) (C)	増 減 (B) - (A)	増 減 (B) - (C)
缶 材	904	864	816	△ 40	48
箔 地	47	46	56	△ 1	△ 10
I T 材	11	9	14	△ 2	△ 5
自動車材	128	125	138	△ 3	△ 13
厚 板	58	52	53	△ 6	△ 1
その他一般 材	240	230	216	△ 10	14
合 計	1,389 国内市場向け 494 海外市場向け 895	1,327 国内市場向け 475 海外市場向け 852	1,293 国内市場向け 479 海外市場向け 815	△ 62 国内市場向け △ 19 海外市場向け △ 43	33 国内市場向け △ 4 海外市場向け 37

© UACJ Corporation. All rights reserved.

22

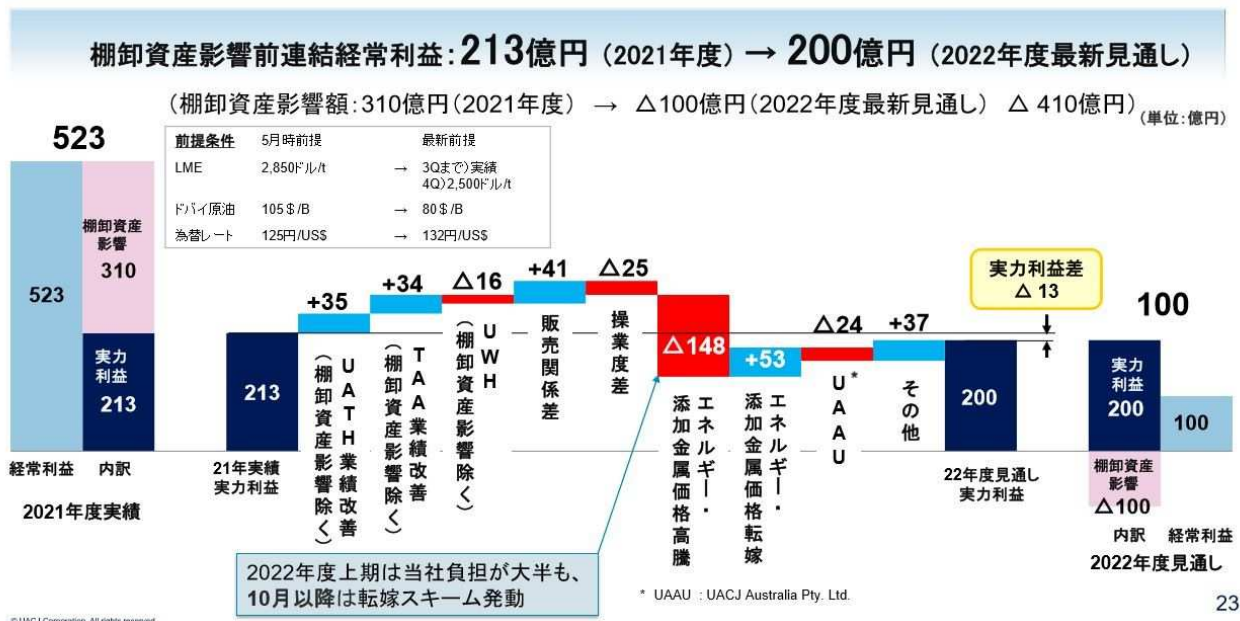
22 ページを開けてください。このベースとなる板の販売状況です。

年間といたしましては、左側の赤枠にありますけれども、132万7,000トンで、昨年11月の138万9,000トンの予想から6万2,000トンほど減ります。見ていただけるように缶材、自動車、厚板、全てがこの11月の状況よりも、サプライチェーン混乱が長引いている影響です。全般的な景況感も悪化をしているということで、全ての項目について当初の見通しよりも少し減っている状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2021年度 → 2022年度最新見通し)



23 ページが前年度との年間損益との分析でございます。

実力損益では、昨年度が 213 億円でした。それが今年度 200 億円で若干減ります。それを分析した結果、サードクォーターまでと傾向は同じでございます。UATH、TAA、これは大変プラスで、Whitehall は厳しい状況にあるということございました。

国内のほうは、ロールマージンが良くなってきて販売関係差がプラスですが、販売数量自身がマイナスなので、操業度差でマイナスになっています。やはり影響が一番大きいのはエネルギーです。こちらのお客様への転嫁につきましてはタイミングの差も大変大きく、今期はエネルギー・添加金属の価格の高騰がフルに影響します。それに対してキャッチアップが広範囲になってきているということで、差し引きで 95 億円ほど前期比マイナスになります。それから UAAU、オーストラリアのアルミ精錬事業ですが、こちらアルミ価格が下がってきていることと、石炭代が上がっているということでマイナスを見込んでいます。

このエネルギーで 95 億円、大変大きなマイナスですけれども、他方でタイとかアメリカ、それから国内での販売、こちらでカバーして、ほぼ昨年と同様の利益が出せるだろうと考えております。

サポート

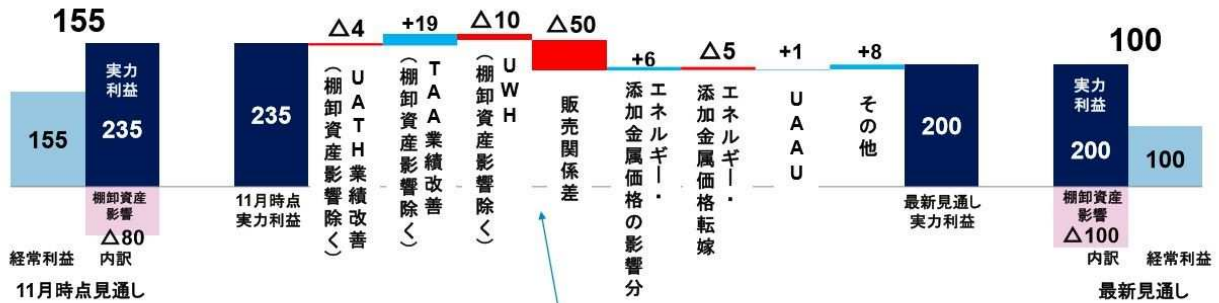
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2022年11月見通し → 2022年度最新見通し)

棚卸資産影響前連結経常利益：235億円 (2022年11月時見通し) → 200億円 (2022年度最新見通し)

(棚卸資産影響額：△80億円(2022年11月時見通し) → △100億円(2022年度最新見通し) △20億円)

(単位:億円)



主に自動車関連の実需の期ズレの発生、一部製品の調整局面により、11月時点からの減益要因となる

© UACJ Corporation. All rights reserved.

24 ページ、これが 11 月時点の見通しとの差です。

235 億円を 200 億円ということでございます。

Whitehall がお客様からのサードクォーターから注文、供給がずれているということが大きいです。それによるマイナスが膨らんでしまうことを見込んでいます。

それから、販売に関しても自動車材、先ほどサプライチェーンの混乱の影響があると説明しましたが、自動車材等を含めて全般的な量が減っているということ等も含めて、50 億円のマイナスと見込んでいます。他方で TAA の状況がさらに良くなっているなど、いくつかの努力がありまして、キャッチアップして、200 億円の利益が確保できると見ております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

株主還元

1株当たり配当金は85円で据え置く

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す



© UACJ Corporation. All rights reserved.

25

25 ページは配当でございますけれども、配当につきましては当初の予定どおり 85 円を予定して実施したいと考えております。

最後のパートは、サステナビリティへの取り組みということで、27 ページ以降、いくつかの項目を挙げております。

“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する



© UACJ Corporation. All rights reserved.

28

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

28 ページにつきましては、従来の、当社が今考えている UACJ VISION 2030 への目標。

4. サステナビリティへの取り組み

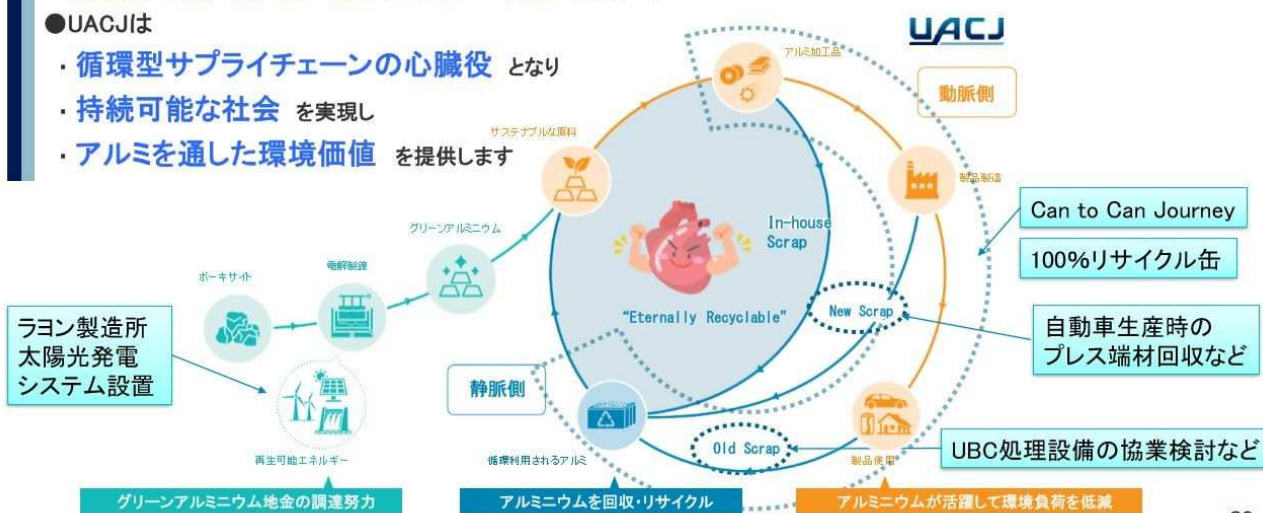
社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

●アルミニウムは

『何でも』『永久に』リサイクル可能な素材です

●UACJは

- ・循環型サプライチェーンの心臓役 となり
- ・持続可能な社会 を実現し
- ・アルミを通じた環境価値 を提供します



© UACJ Corporation. All rights reserved.

29

それから、29 ページがサーキュラーエコノミーのことです。

4. サステナビリティへの取り組み

ESG説明会を開催



© UACJ Corporation. All rights reserved.

■ 当社初開催となるESG説明会を、対面+WEBで実施 開催日: 2022年11月29日(10:00-12:00)

■ 「100年続く軽やかな社会のために」をテーマとして掲げ、環境、人材、リスクマネジメント等、当社のサステナビリティの考え方について説明

■ アルミニウムの素材としての将来性、アルミニウムのリサイクルに関する優位性をベースに当社の目指す方向性を強く訴求した

■ 登壇者	代表取締役社長	石原 美幸
	取締役 常務執行役員	田中 信二
	専務執行役員	山口 明則
	執行役員	隈元 穰治
	サステナビリティ推進部 主査	野瀬 健二

関連資料記載HP:

<https://www.uacj.co.jp/ir/other/events.htm>

30

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



30 ページです。トピックスとして、昨年 11 月 29 日に初めて ESG 説明会を開催させていただきました。皆さん参加していただいて、いろいろなアンケートもいただきました。大変好評ということで、こちらにつきましては来年以降も続けていきたいと考えております。

4. サステナビリティへの取り組み ASI*1 本認証取得



ASI(Performance Standard*2)が暫定認証から本認証に移行

〈これまでの経過〉

- 2020/7/2 ASI加盟(日系アルミニウム圧延メーカーとして初加盟)
- 2022/2/14 Performance Standardの暫定認証取得
- 2022/3/10 Chain of Custody Standard*3の本認証取得
- 2022/8 現地監査を実施(福井製造所/UACJ、ラヨン製造所/UATH)
- 2023/1/5 **監査の結果、Performance Standardの暫定認証が本認証へ移行
⇒認証のステップが完了**

アルミニウム業界のグローバルスタンダード策定に積極的に関与し、
お客様・仕入先様との協働で持続可能なアルミニウム事業の実現を追求していく

*1 Aluminium Stewardship Initiative アルミニウムのサプライチェーンにおけるサステナビリティ向上を目指す国際イニシアチブ
*2 企業統治・環境・社会的責任について、持続可能性や透明性を高めるための基準
*3 加工・流通過程までの持続的な開発のための基準

© UACJ Corporation. All rights reserved. ASI 当社の紹介ページ : <https://aluminium-stewardship.org/about-asi/asi-members/uacj-corporation>

31

それからもう一つトピックとして、31 ページに ASI の認証です。これがこの 1 月に本認証を取得できたという形で、ここに記載させていただいております。

4. サステナビリティへの取り組み

UATHが「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022」で4年連続プラチナレベルを受賞



受賞の様子
(右:アマタファシリティサービス アカレス・シューシュー社長、
左:UATH チャン・チャイチャンシニアマネージャー)



「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022」
プラチナレベルトロフィー

© UACJ Corporation. All rights reserved.

UATHがラヨン製造所を構えるアマタシティ*1での、「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022 / AMATA BEST WASTE MANAGEMENT AWARD 2022」において「プラチナレベル*2」を受賞
4年連続のプラチナレベルの受賞で、今回は初めてフルスコアを獲得

「アマタ最優秀廃棄物管理賞2022 / AMATA BEST WASTE MANAGEMENT AWARD 2022」
本賞は、3R原則(リデュース・リユース・リサイクル)と埋立廃棄物の削減、その他廃棄物を効果的に管理している企業を表彰するもので、アマタ工業団地として産業廃棄物への意識を高め、効果的な管理を奨励することが目的

今後も環境負荷低減に貢献し、引き続き拠点周辺の地域社会との関係構築に努め、
持続可能で豊かな社会の実現に貢献していく

*1 アマタシティ(ラヨン)とアマタシティ(チョンブリ)の2つの地域で成る工業団地。ラヨン製造所(UATH)が位置するアマタシティ(ラヨン)は、バンコク中心部から114km、スワンナプーム空港から99kmにあるラヨン県に開発された大規模な工業団地で、総面積はおよそ27km²。
*2 70%以上のスコアを獲得した企業が認定されるレベル

32

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それから 32 ページが UATH の取り組みです。こちらについても表彰を受けているということで書いております。

4. サステナビリティへの取り組み

次世代育成への貢献活動 / 生物多様性への貢献活動

UACJ野球教室(福井県坂井市)の開催



東京ヤクルトスワローズのキャッチャー中村悠平選手、東京ヤクルトスワローズOBの内藤尚行さん(通称 ギャオス内藤さん)、宇佐美康広さん、村中恭兵さんを招き、リトルリーグに在籍する小学生を対象とした「UACJ野球教室」を福井県坂井市で開催

将来を担う子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を伝え、スポーツの振興および地域における次世代育成を目指し、活動を展開していく

「30 by 30」への参加、森林整備活動の実施



当社グループは生物多様性保全を重要な地球環境問題の一つと認識し、その方針と考えを一にする「30 by 30」活動に参加。

具体的な取り組みとして、「福井県及び坂井市と企業の森づくりに関する協定」を締結、坂井市から「UACJ福井の森」を借り受け、森林整備活動を実施

地域の環境保全活動の強化、地域社会との関係性強化や、従業員の環境意識向上を目指し、活動を展開していく

30 by 30(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/index.html#about30by30>)
© UACJ Corporation. All rights reserved. 2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする取り組み

33

それから最後、33 ページが次世代への貢献、それから生物多様性への貢献活動という形で、地元の地域社会に対して、いろいろな貢献をするということがありますので、こちらを記載させていただきました。

私からの説明は以上でございます。

上田：当社からご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

上田 [M]：これより、皆様からのご質問をお受けいたします。

それでは、最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社、山口様、お願いいたします。

山口 [M]：いつもお世話になっております。ありがとうございます。よろしく申し上げます。まず、いつも同じ質問をして恐縮ですが、子会社群の年間の売上、営業利益、経常利益および、もしよければ棚卸影響、あるいは棚卸前の利益で教えていただければと思います。これが1問目でございます。

飯田 [A]：まず UATH、見通しでございますが、売上が 1,919 億円、営業利益 46 億円、棚卸資産影響前の経常利益が 32 億円、経常利益は 7 億円、見通しでございます。

続きまして、TAA、売上高 2,863 億円、営業利益 52 億円、棚卸資産影響前経常利益 134 億円、経常利益 2 億円の見通しでございます。

最後、UWH でございます。売上高 366 億円、営業利益マイナス 20 億円、棚卸資産影響前の経常利益がマイナス 34 億円、経常利益マイナス 32 億円、以上でございます。

山口 [Q]：ありがとうございます。第 4 四半期に向けて利益が改善すると見ていると思いますが、この棚卸前経常利益全体として、これに関して 20 億円が第 4 クォーターで 40 億円と改善しますが、これはその価格の転嫁の進展とか数量の回復とか、どういうあれで 3 四期と 4 四期の利益の変動を見ていらっしゃるんですか。ここをご解説いただければと思います。

川島 [A]：では、川島から概略を説明させていただきます。まず、需要状況はあまり大きく変わらないと考えております。例えば一つ、Whitehall です。Whitehall はさっき説明しましたが、サードクォーターだけを考えると 10 億円の損です。フォースクォーターだけを考えると、ほぼトントンの利益です。

従って、サードクォーターから比べればフォースクォーターの分だけ好転をするというのはあります。それから、サードクォーターに外貨建ての為替損が 4 億～5 億円出ています。それも今のペースで見ると出ないということで、それとあと決算整理とかその辺り、多分 40 億円ぐらいの利益が出ると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



山口 [Q]：分かりました。それぞれの子会社群の2クォーター、3クォーター、4クォーターの、いわゆるクォーターでの利益が変動しているところ、2クォーターから3クォーター、3クォーターから4クォーター、あと国内の事業も含めてご解説いただけますか。

川島 [Q]：足元、さっき言った一番大きいのが、Whitehallにつきましては、先ほど申しましたように、ほぼファーストクォーター、セカンドクォーター、サードクォーターとも10億円から12億円ぐらいの赤字が出まして、フォースクォーターでトントンという形で、これが大きく改善をしている状況です。

TAAにつきましては、定性的な形でいうと、セカンドクォーターまでは大変好調でした。サードクォーターの途中から、在庫の調整局面に突入したものですから、悪くはないですけれども一時期の勢いは少し止まりつつあり、その辺がブレーキになってきていると思っています。

それから、UATHにつきまして、決算期がずれていますがサードクォーターは大変良かったです。フォースクォーターも、正直言ってまだ悪くないです。ただし、12月決算の終わりのほうになると、アメリカの在庫調整が若干入ってくるのかなと考えております。

山口 [Q]：最後ですけど、増減要因分析、御社、今年度のyear-on-yearの増減要因分析を掲げていたと思いますが、23ページ目。これの一番注目しているのは、エネルギー・添加金属で148の減少、価格転嫁で53の増加で期ズレしているように見えるのですが。要は今期の取りこぼしが95億円あるのですが、これは来年度に向けて好転要因と入れてしまってもいいのでしょうか。それともそれはそんなに甘くなくて、それを来年はまた、例えばシリコンなど上がっているものもあたりするのはまた別でしょうか。

川島 [A]：まず、基本的には期ズレと考えてください。最初に触れましたように、お客様と話をし、このエネルギー・添加金属については、お客様のほうに転嫁するという価格体系について合意をいただいています。ただし、即日に関係が反映されるわけではありませんから、どうしても半年遅れになったりします。

従って、特に今期につきましてはお客様と話をさせていただいて、サードクォーター以降に価格を導入していると。しかし、エネルギー代、それから添加金属はタイミング差という形で考えていただき、この価格が全く変わらないと考えるのであれば、この部分の裏は来年以降変えると考えていただければいいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



山口 [Q]：全部横ばいだと考えたら、この取りこぼした 95 は来年返ってくるという見方ができる。ただ、例えばオイルがまた 110 とか 120 とか上がっていってしまうと半年ずれてしまう、このように考えておけばいいですね。

川島 [A]：そうです。取りこぼしというかタイミング差ですから、取りこぼしではなくて、差が出てしまうと、時間的にですね。そのように考えていただければと思います。

山口 [M]：了解いたしました。どうもありがとうございました。失礼いたします。

川島 [M]：よろしくお願いいたします。

上田 [M]：ご質問ありがとうございます。では、次のご質問者をご紹介します。UBS 証券株式会社、五老様、よろしくお願いいたします。

五老 [Q]：UBS 証券の五老です。よろしくお願いいたします。

まず 1 問目ですけれども、今回在庫調整ということで、第 2 四半期のときも全般に景況感の影響が出ているというお話があった中で、混乱を、その影響が大きく出ているというような解説になっているかなと思うのですけれども。

地域によってその影響、先ほどのお話ですと、アメリカは夏前までというような見通しをおっしゃっておられましたけれども、景況感の悪化の話と在庫調整というのは必ずしもリンクしていない部分があるのかなと思います。来期に向けて数量要因というのは今期対比で回復方向に見られる状況にあるのか、それともマイナスが長引くので年度比較で来期に向けてまた減少方向なのか、この辺りちょっとすみません、気が早い質問ではあるのですが、景況感とのリンクというところを解説いただけたらと思います。これが 1 点目です。

2 点目は、国内ではマージン改善が進んでいるというご説明をいただいていたわけですが、北米などでは、もともと価格転嫁の仕組みが年度ごとに変化ということで、4 月以降に変化があるというような形になっているかと思うのですが、海外拠点でやられている分の取り戻し要素というのも、まだそういう意味では次年度に向けてあるのかなと思うのです。こちらの海外拠点のタイムラグの来期に向けた効果、今期逆にマイナス影響をこうむっている部分という、この辺りについて解説いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

川島 [A]：では、川島から概略でございます。まず、地域と、それから品種に分けて考えたほうがいいと思っています。まず、一番大きい缶材です。こちらにつきましても、大変需要自身は強いのですが、物流の混乱もあって、お客様のほうで随分在庫を積んだと。それがこの秋ぐらいか

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ら、この流通の混乱が収まってスムーズだったということで、その在庫調整が入っていたということとであります。

従って、その調整がこの夏前ぐらいまでは続くのではと考えております。従って、需要自身は大変強い。それから景況感とは申しましたけれども、飲料缶はそれほど大きな影響を受けるわけではありませぬから、大変強いのではないかなと思いますので、戻ってくるだろうと考えております。

それから、今度は自動車です。北米の自動車、特に部品につきまして、自動車の需要は大変強いと聞いております。ただし半導体だけではなくて、部品を含めたサプライチェーンの混乱が続いていて、なかなか自動車の生産が立ち上がっていません。お客様からは大変強い注文はいただいているのですが、それがサードクォーター立ち上がらずに、やっとフォースクォーターで立ち上がってきたということとあります。

その混乱が収まれば、もっともっと利益は上がってくる。それでもフォースクォーターだけを見ると、どうにか水面上に出るのではないかなと見ております。ここら辺が来期に向けてどういう形になってくるか、きょうの段階ではまだ来期の数字は申し上げられませんが、そのような見方をしてもいいのではないかなと思っています。

国内についても、自動車については同じような状況ではないかと考えております。

それから、アメリカの TAA のエネルギー代、これはもうシステムチックに 1 年遅れで転嫁をするというスキームが確立されておりますので、今年上がったものに関しては必ず来年転嫁できる形です。

来年が今と大きくエネルギー代が変わらなければ、それを取り戻せるかもしれません。それが損益に影響してくるのではないかと考えております。以上です。

五老 [Q]：確認ですが、そうしますと TAA の今期の業績見通し、先ほど口頭ベースで数字をお伺いしておりますけれども、実力ベースで 134 億円の経常見通しと。これは 1 年分のエネルギー価格転嫁遅れ分を織り込んだ状態の数字になっているということになるという理解でよろしいですね。

川島 [A]：はい。今年の数字は、そのベースで物事を見ておりますので、それを若干上がった分については、一部来年に行くだろうという形で、負担をしている数字でさっきの数字になっております。

五老 [M]：大変よく分かりました。ありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、モルガン・スタンレーMUFG 証券株式会社、白川様、お願いいたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。本日はありがとうございます。質問2点よろしくをお願いします。

1点目が資料の8ページと22ページの売上数量を見ての質問になるのですが、厚板に関してですが、統計とか、それから他社の決算を見ますと、半導体製造装置向けの厚板がかなり低調になってきているかと思うのです。御社の3Q累計だと、厚板に関してはYoYでまだ数量プラスできていますし、見通しに関して数量は前年から比べると少し落ちるかなというところですが、総体かなり強いかなと思います。

半導体製造装置向けの厚板のマーケットが今どんな状況なのか。今後、この厚板の数量が落ちていく、御社も落ちていくような状況になってしまう可能性があるかどうかについてご解説をお願いいたします。これがまず1点目になります。

2点目が、配当の話をもうちょっと詳しく教えてください。今回、減配にはなっていないというところですが、在庫評価損を含めてですけれども配当性向を計算すると59%まで高まっているかなと思います。

配当に関して今回維持されたという背景で、どのような議論が御社の中であったのかというところ。あと、この85円という配当が今後よほどのことがなければ、この85円を安定配当ですよと、要はこれが下限として設定できるものなのかというところのお考えを教えてください。以上2点です。よろしくお願いいたします。

川島 [A]：では、また川島からお話しさせていただきます。まず、厚板の全般的な見方は、19ページの景況感のところに厚板と書いておりますけれども、半導体製造装置の製造については、やはり基本的には中長期的にはトレンドは変わらないと考えております。

ただ、足元は調整が入るといのがありまして、23年はこれから年間計画を作りますが、横ばいかという見方はしております。

足元、厚板は実体の注文が来ているので、流れとしては若干在庫調整が来るけれども、そんなに弱くないだろうと考えております。

それから配当につきましては、確かに言われているように今期の数字から見ると59%ですが、他方で昨年は棚卸による利益が出ていました。棚卸による利益は、どうしてもプラスマイナスでどちらかにぶれるか分からないと考えておりますので、考え方としては、やはり実力損益に対す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



る配当をベースに考えながら持っていくというのが当社の考え方でございます。そう考えると、85円は維持できるだろうという考えです。

これはまだ会社の最終的な意思意志決定ではないですし、やはり安定的な配当を継続していくのが大きな課題だと考えれば、85円というのは適正な配当額になるのではないかなと考えております。

石原 [A]：石原です。厚板について少し補足したいと思います。当社の厚板は、他社に比べて幅が広い、あるいは表面精度が高くて、そのまま使用できるという特徴があります。そんな中で、用途としては半導体製造装置だけではないわけです。新しいエネルギーの貯蔵用のタンクであったり、あるいは私どもが得意とする鍛造の設備、これはモビリティの分野にかなり使われるものがございますけれども、こういった用途に厚板を提供できるというような、この特色があります。

従って一般的な半導体製造装置向けの厚板だけの需要動向ではない、そういったものをわれわれは見越して、実績も3クォーターでは対前年で向上していますし、今後も需要が大きく見込まれる分野であろうということに注目をしています。以上です。

白川 [M]：よく分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、野村証券株式会社、松本様、お願いいたします。

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。二つありまして、一つは、先ほど川島さんからお話があった、アメリカの素材、在庫調整の話です。数量の調整は、どちらかというタイからの輸出で調整されるようなことを前におっしゃっていたような気がしまして。ただ、先ほどのご説明だと、TAAでも少し何か影響があったようなお話だったので、その辺の考え方をちょっと教えていただきたいのと。

あと、24ページを見ますと、結構TAAの業績がどちらかという上のほうに行っている感じがして、もともと予想は慎重だったのかもしれないですが、この辺の背景を教えてください。

2点目は、国内の需要の缶とか、ITのところというのはこの第4四半期とか、来期に向けてどのような業界環境を見ていらっしゃるのか教えてください。以上です。

川島 [A]：では、また川島から。まず、アメリカでございますけれども、在庫調整の影響で量が減ってきています。アメリカの販売に対してご理解されていると思うのですが、一部タイのほうからも持ってっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



こちらを少し絞っていっているところがありますので、TAA の販売減がタイに影響してきています。ただし、東南アジアは東南アジアのほうで需要がありますので、タイにつきましては、やはり 33 万トンの販売を確保できるという形で対応できるのではないかと考えています。

それから、24 ページで、確かに在庫調整で販売がちょっと頭打ちと言いながら TAA が好転してきているというのは、これは原材料のところでも若干コンサバティブに見ていました。実際にやってみたら、なかなか利幅が取れたということで、これがプラスに効いているということでございまして。この販売の状況というよりも、コストのほうで下げられたとご理解いただければいいと思います。

石原 [A]：国内の缶と IT の見通しについて少し補足させていただきます。屋内の環境について、缶材については、少し足元の需要動向からいくと、少し停滞気味ではあるのですが、アルミ缶という意味でいきますと、ペットボトルからアルミ缶への需要の転換事例が大変多く出てきています。

さらに、アルミ缶のリサイクル性も随分認知される状況になってきましたので、ここは原料そのものの数字は増えませんが、缶材が使われるアルミ缶の需要は増えていくと見通しを持っております。

IT 関連は、今足元で、お客様のところでの新しい投資がなかったり、あるいはサーバー需要とか、そういったものは停滞していますが、これは一時的なものであると見ております。当然 DX へ適用であったり、サーバーの拡大というのは、いろいろな産業の中で増えてまいりますので、当社についても 2023 年の下期以降は続く見通しを持っております。以上です。

松本 [M]：よく分かりました。ありがとうございました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、大和証券株式会社、尾崎様、お願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。よろしくお願いたします。タイの UATH の第 4 四半期の実質経常が、計算すると 4 億円ぐらいに減ってしまうと見えるんですけども。こちら、これまで割と堅調に推移してきた中で、少し利益が落ち込んでしまうというのはどういった背景があるのかというのを教えてください。

2 点目が、24 ページ目の従来計画との比較で販売関係差マイナス 50 というところですけども、こちらは主にその販売数量だけの影響なのか、何か生産の影響とかが含まれているかどうか教えて

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ください。缶材とか、厚板とか、特に影響が大きかった分野がどういったものがあるのかも含めてご回答いただくと幸いです。以上2点です。

飯田 [A]：今までご説明申し上げましたように、米国での缶材の一時的な在庫調整の影響は多少なりありますということと。年度末になりましたので、いろいろと補修工事等も行うということで、コストがちょっと集中しているというような状況でございます。タイにつきましては以上でございます。

川島 [A]：マイナス50億円の大きいところは、自動車関係が影響しています。自動車関係という
と板だけではなくて、押出とか箔とか、全般的に効いています。

それからもう一つは、やはり厚板が減ってきている等、そんなことで全般を見ると、当初の見通しよりも50億円ぐらいマイナスとなるという見方をしております。

尾崎 [M]：よく分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。次のご質問は、東海東京調査センター、柴田様、お願いいたします。

柴田 [Q]：大変お世話になっております。東海東京調査センターの柴田と申します。1個だけ教えてください。

UWHですけれども、第4クォーターからいきなり1Qから3Qまで数量が伸びずに、なかなか利益が定着しなかったところで、第4クォーターからいきなり黒転するというのは、なかなかちょっとイメージがつかないですが、こういった背景があつてこの第4クォーターから黒転すると見られているのか。いくつかポイントがあればご解説いただけないでしょうか。以上1点、よろしく願いいたします。

川島 [A]：川島から回答します。もともと自動車の部材でございますので、既にもう注文をいただいております。もっと早くからお客様のほうで車の生産が立ち上がれば、それで販売ができたという状況です。それがお客様での生産の混乱、部品が調達できないという混乱が生じていました。それがだんだん解消されてきて、フォースクォーターになると、どうにかその注文に対して出荷ができるという形となる見込みです。

そういう意味ではつくる量は多分変わらないでしょうけれども、それがだんだん横に、後ろにずれてしまっていたと。そのずれた部分がフォースクォーターから、いよいよどうにか黒字ぐらいが出るぐらいの量まで来ているという状況で、それがキャッチアップできると考えております。既に実

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



際に1月になっても注文をいただいておりますので、急に増えたわけではなくて、もともと予定していたのがずれずれで来て、やっとそれがカバーできたと考えていただければいいと思います。

柴田 [Q]：かしこまりました。数量がドライバーでということですね。

川島 [A]：そうです。既に注文をいただいておりますので、ちゃんと自動車のほうでサプライヤーの混乱が解消して立ち上がってくれば、当然取れるものだと考えております。

柴田 [M]：大変よく分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。そろそろ予定の時間が迫ってまいりましたので、恐れ入りますが次の方を最後のお一人とさせていただきます。SMBC 日興証券株式会社、山口様、よろしく願いいたします。

山口 [Q]：損益計算書の見方を教えていただきたいです。支払利息のところ、昨年同期の短信だと47億円ぐらいあったのが、42億円に今回はなっていて、第3クォーターが今回42億円で、差し引くと前回の第2四半期累計の短信との差引でいくと、第3四半期の利払いが3億円になるけれども、何か変えましたか。

川島 [A]：細かいところまでは、ぱっと頭に入っていないのですけれども、概略で、イメージで申し上げます。

借入金が若干減ってきているのはありますが、他方で金利が上がってきていると。もう一つは、ファクタリングなどを状況によって利用しておりますので、勘定科目のところで若干差が出ます。そんなところではないかなと考えております。

山口 [Q]：分かりました。では、取材のときに明らかにしていただけるとうれしいです。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。予定のお時間がまいりましたので、本日の説明会は終了させていただきます。

以上をもちまして、株式会社UACJ、2022年度第3四半期決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただき、ありがとうございました。

今後も、株主をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう邁進してまいりますので、引き続き弊社をご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

本日は、お忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

話者 [M]：ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com